

いきいきとした暮らし、地域のつながりづくりをすすめます

地域課題の解決に向けて、地域でのつながりや協働が広がり、地域の団体・個人がそれぞれの力を発揮し、いきいきと活躍できる「まち 暮らし」



何の数字

約 **8900** 万円
寄せられた募金の総額 (P10)

年間 **3323** 人
地域つながるミーティング参加者数 (P12)

92
学校・学生との連携プロジェクト数 (P11)

33 カ所
コープのつどい場 (P13)



皆さんからの募金は地域のために

宅配や店舗、またコープこうべアプリでの募金の取り組みで、組合員の皆さんから総額約8900万円の善意が寄せられました。自然災害で被災された方、修学の継続が難しい生徒、暮らしにお困りの方、地域のボランティアを支援する団体などを応援し、より良い地域や社会を実現するために活用させていただきました。これからも一人ひとりの思いを寄せ合って助け合いの取り組みを広げていきます。



募金に協力する組合員



コープこうべアプリのポイント募金の画面



募金の取り組みを報告するポスター

若い世代の活躍を願っています

コープこうべの呼びかけで集まった高校生7人が実行委員となり、5月から企画や運営の準備を行った「サニーフェスタ2025 ～太陽より熱い！ボクらの青春!!～」を10月に開催しました。公募で集まった15の個人や団体が参加し、ステージでは大学の書道会や吹奏楽部などが、日頃の成果を披露。ブースでは高校生が開発した防災食の紹介などが行われ、来場者はワカモノの熱気に圧倒されつつも、楽しい時間を過ごしました。最後のステージでは地元で人気のバンド「ワタナベフラワー」の熱唱で盛り上がり、幕を閉じました。



出展ブースでそれぞれの活動内容を紹介



吹奏楽部の大学生、約60人がステージで演奏



サニーフェスタを運営した皆さん

デジタルツールを使った助け合い、学び合い・教え合い

コープこうべアプリを通じてゴミ出しなど日常の困り事を近隣の組合員同士で支え合う仕組み「たすけタッチ」の活動は、月400件を超えています。神戸市垂水区でスタートした活動は、東灘区や西区にも広がり12月、累計1万件を突破。2026年4月からは神戸市北区でも展開しています。また、自分が得意な事を登録する人材データベース「デバングス.net」に登録した講師が、環境や防災に関する学習会を地域コープ委員会やレインボースクールで開催。デジタルの力で参加の幅を広げ、日常の助け合いや学び合い・教え合いが地域に根付き始めています。



ゴミ出しを手伝う組合員

学んで、伝えて、つながって

組合員や職員が「語り手」となり、エシカル消費やコープ商品を地域の皆さんに伝える取り組みをすすめています。地域コープ委員会ではローリングストックをテーマに「語り手が伝える会」を開催。また防災について学び伝える組合員有志の会「BOSAIキッチンチーム」は、ポリ袋調理やローリングストック商品の紹介、食物アレルギーに配慮した防災レシピの開発などを実施しました。コープ商品を活用し、実践的で暮らしに役立つ知識を広げ、学びを行動につなげています。



ポリ袋で調理するBOSAIキッチンチームの組合員

1 お買い物を通じた暮らしの安心づくりをすすめます

2 いきいきとした暮らし、地域のつながりづくりをすすめます

3 環境や社会のために活動する事業モデルを促進します

組合員と共に子育てを 応援しています

約1万人が登録するコープサークルの中で、組合員集会所やつどい場を活用し、子育てひろばなど、子育てを応援する活動が広がっています。小野組合員集会所では、5月からNPO法人も加わり、困難を抱える子どもや家庭への支援を強化しました。

また約50サークルが地域住民や団体と連携し、定期的に子ども食堂を開催。「フードドライブ」とも連携し、地域ぐるみで子どもを見守る体制づくりをすすめています。



小野組合員集会所で開催している子ども食堂

助け合いの輪が広がっています

兵庫県内の「コープくらしの助け合いの会」では全体交流会を開催し、つどい場でのカフェ運営など活動も広がりました。また大阪北地区の助け合い制度「コープむつみ会」は、社会福祉協議会や地域団体と連携し認知度向上に取り組んでいます。

コープ高砂では「買い物ん行こカー」の利用者を支える買い物支援ボランティア活動がスタートし、認知症支援団体と協働で見守り活動を実施。日常の暮らしを支える仕組みとして、地域の助け合いの輪が広がっています。



助け合いのこれからを話し合った
全体交流会

誰もが集える拠点が広がりました

学びと交流の拠点「ふれあいひろば」は、活動相談カウンターを備え、地域活動を始めたい人や仲間を探したい人を支援する場として、年間8万人を超える方が来場しています。6月には「ふれあいひろば コレルせいぶん」を開設し、貸室に加えロビー喫茶やマルシェの開催など、多様な交流の機会が生まれています。

また、コープのつどい場は8月、コープ箕面の隣に「咲くらのかけはし」を開設し33カ所に広がりました。子どもから高齢者まで気軽に集える、地域の居場所づくりに取り組んでいます。



8月にオープンしたつどい場「咲くらのかけはし」



学びと交流をテーマに活動を広げる「ふれあいひろば コレルせいぶん」



多世代が交流するつどい場の様子

話し合いをきっかけにつながりを強めています

地域で活動する個人や団体が出会い、つながる場「地域つながるミーティング」。2022年2月のスタート以来、100を超える会場で、年間のべ3000人以上が参加しています。今年度は、「備える」をテーマに多くの実践活動が行われました。コープ播磨では「防災・地域力を高める」をテーマに、停電時にも使える公衆電話の設置場所を記した「地域つながる防災マップ」を作成。播磨町と連携し、町主催の防災ウォーキングイベントで配布しました。これからも地域の商店街や学校などの団体と連携し、地域課題に応じた活動を生み出していきます。



「備える」をテーマに話し合うコープ渦森台の地域つながるミーティング



播磨町主催の防災ウォーキングイベントで
自作の「地域つながる防災マップ」を配布

行政や関係団体と連携し 課題解決に取り組んでいます

10月、西宮市と包括連携協定を締結し、「西宮市居住支援協議会」を設立。行政や関係団体と連携した取り組みを開始しました。住まいに困り事を抱える人を支えるため、関係団体同士のネットワークづくりや相談体制の充実を図っています。

尼崎市と行う住宅支援の取り組み「REHUL」事業は、25団体と協働し、多様な課題に対応しています。

またコープこうべの遊休施設を提供して開設された女性向け共同住宅「六甲ウィメンズハウス」については、子ども食堂や学習支援に協力しています。誰もが安心して住み続けられる地域づくりをすすめています。



大学生が子どもたちの学習を支援
(六甲ウィメンズハウス)



西宮市との協定締結式(右:石井 登志郎市長、左:武本 裕子理事)



西宮市居住支援協議会の体制図

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます、地域のいきいきとしたくらしを

3 環境や社会のために活動する事業モデルを促進します